

羽衣駅周辺整備基本計画 概要版

第1章 基本方針

1. 前提条件（対象区域、基本構想および上位計画での位置づけ）等

（1）対象区域

- 本基本計画の対象区域は、右図の3つのエリアとする。

周辺交通	南海羽衣駅・JR東羽衣駅
周辺の公共施設	浜寺公園・羽衣国際大学・パンセ羽衣
都市計画等	近隣商業地域・高度利用地区 （建蔽率80％・容積率300～400％）等
ハザードマップ	津波浸水想定区域



（2）上位計画・関連計画

- 基本構想コンセプト：「居心地の良い賑わいとなりわいが健幸を育む ひととまちが交わる魅力づくり拠点」

	羽衣駅周辺整備基本構想(R5.3)	その他の上位計画・関連計画
視点	① 公共的な空間と遊休資源の活用 ② 浜寺公園の魅力のとりこみ ③ 地域に根ざしたひと中心の魅力創造 ④ 高石駅と羽衣駅の連携と共生	<関連事業> ■ 羽衣駅前地区第一種市街地再開発事業 ■ 南海本線・高師浜線(高石市)連続立体交差事業
方向性	【方向性①】歩きたくなるまちをつくる ➢ 安全で歩きやすいみちづくり ➢ 回遊性を生む小さな拠点づくり ➢ ひととまちが出会う仕組みと仕掛けづくり 【方向性②】健幸になるまちをつくる ➢ 居心地がよく、長居したくなる場づくり ➢ 身体を動かしたくなる仕掛けづくり ➢ ひとが輝く交流と活躍の場と機会づくり	<上位計画> ■ 第5次高石市総合計画(R3.3) ■ 高石市都市計画マスタープラン(改訂版)(R4.4) ■ 高石市立地適正化計画(R4.1) ■ 第2期高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略(R2.3) ■ 羽衣駅・高師浜線周辺地区バリアフリー基本構想(R5.3) ■ 高石市みどりの基本計画(H29.2)

2. 羽衣駅周辺の特性と課題

（1）羽衣駅周辺地域の特性

	まちづくりの視点	羽衣駅周辺の魅力	羽衣駅周辺の課題
アイデンティティ	文化性	住民が愛着をもつ住みやすい住環境	学校が多い文教地区
快適性	利便性	人が温かく、まちがきれい	魅力ある浜寺公園が近い、歴史あるまち
安全性		日常生活は便利	浜寺公園の魅力を活かしきれていない
		鉄道での交通利便性が高い	古い建物、空き店舗が多い
		自転車は便利	学生のみどり場・居場所がない
		魅力的なお店がある	利便性はあるが店舗の活気・賑わいが少ない
		羽衣通りは狭く危険で、歩きにくい	通学路の交通量が多く、危険
			駐輪場が少ない、駐車場がない

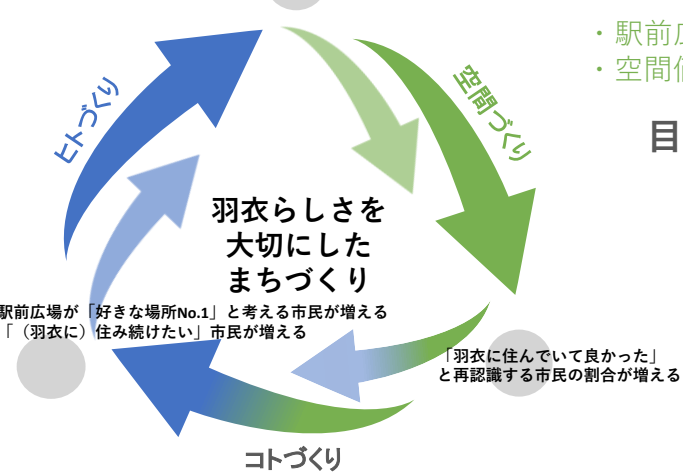
（2）取り組むべき地域課題

- ① “羽衣らしさ”の再構築 ～まずは市民のQOLの向上
羽衣の魅力を再認識できる“まちとの接点”を形成することを通して、市民の生活の質を高めることが優先課題。
- ② 学生や就業者にも配慮したまちづくり ～急行停車駅にふさわしい環境づくり
通学する学生や臨海部の就業者などと市民が交流する滞留空間の整備が喫緊の課題。
- ③ 「人」をつなぐ機会の創出 ～質の高い公共空間を維持・発展させる体制づくりへ
滞留空間が交流を育むための、人と人をつなぐコトを企画・運営する仕組みや組織形成が課題。
- ④ 歩きたくなる街へ ～歩行者を優先しながら自動車での利便性も確保
歩行者の安心と快適性、自動車の利便性も確保した、玄関口として望ましい目標像の形成が課題。

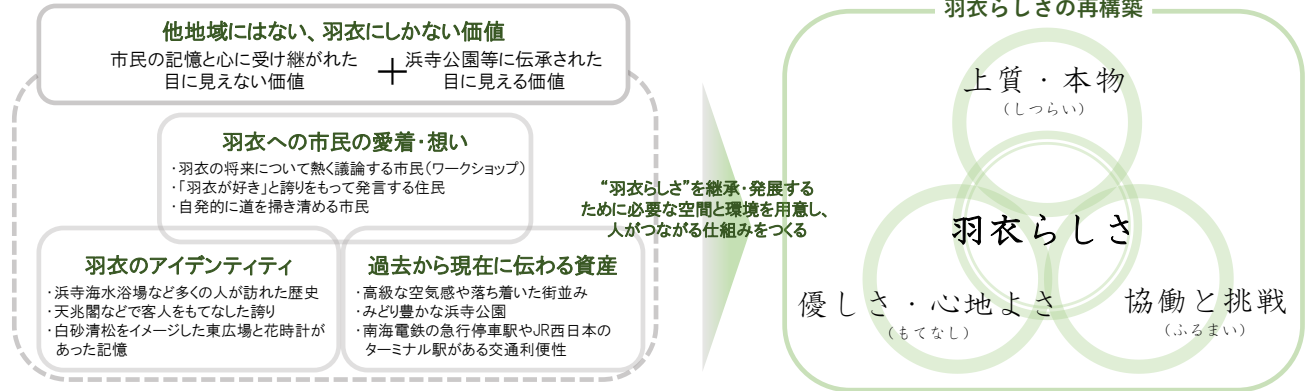
3. 目標とコンセプト ～羽衣らしさを大切にしまちづくり～

（1）事業目標

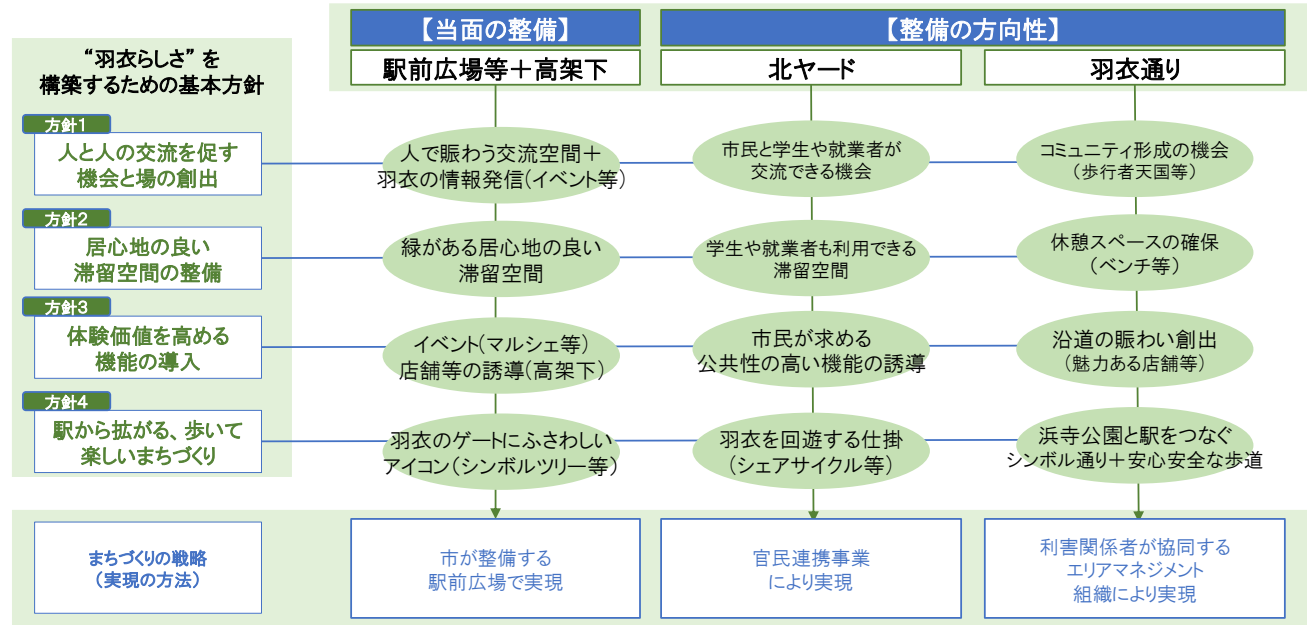
「羽衣はいいまちですね」と言われる機会が増える
羽衣の人は「すごい」と相互認識する出会いと交流の機会をつくる



（2）コンセプト ～“羽衣らしさ”とは～

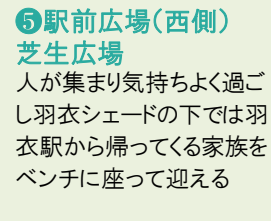
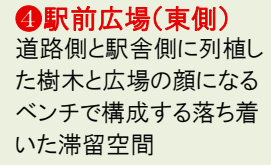
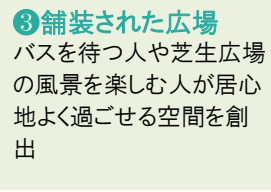


（3）羽衣駅周辺整備における基本方針



第2章 駅前広場及び周回道路の基本整備プラン

- 駅の東西に2つの広場を設置し、駅周辺に人が集まり滞留し交流が生まれる「歩いて楽しい」空間を整備する。



第3章 北ヤード及び羽衣通り整備の方向性

北ヤード	羽衣通り
■ 羽衣への愛着度を増すシンボリックな空間へ ● 整備の方向性(案) - 市民と学生や就業者が交流できる機会の創出 - 学生や就業者も利用できる滞留空間の整備 - 市民が求める公共性の高い機能の誘導 - 羽衣を回遊する仕掛けづくり ■ 公共性の高い機能や空間の要件は市民ニーズを踏まえる ■ 官民連携による事業推進 ～市有地を有効活用したまちづくりの推進～	■ 浜寺公園と羽衣駅をつなぐシンボル通りとしての整備を検討 ● 浜寺公園を貴重な地域資源として取り込む ● 歩行者の安全性の確保を第一に羽衣通りを歩車共存道路として再整備する ■ 沿道の賑わいを創出する魅力ある店舗等の誘導 ● エリアマネジメントによりシンボル通りとしてふさわしい風景を創出する ● 社会実験等の実施を通じて利害関係者が協働する体制を中長期的に整える

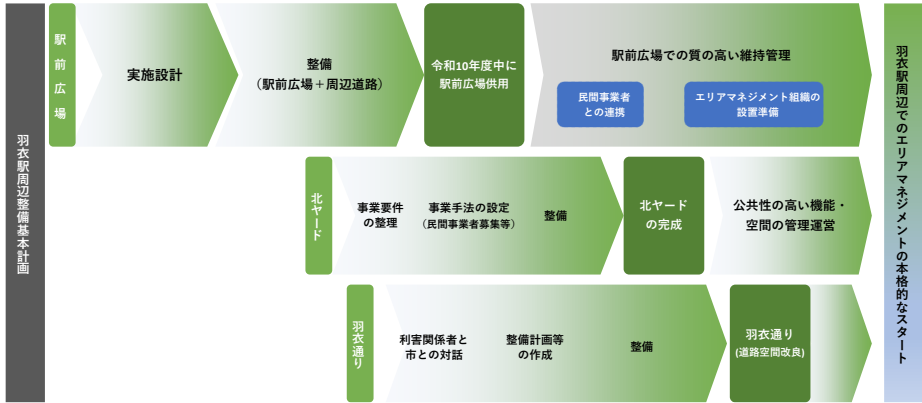
■ 市民ワークショップで議論した北ヤードのあり方と具体的なアイデア

整備に関する基本的な考え方	機能や空間のあり方	具体的なアイデア
愛着あるシンボル空間	市民が求める公共性の高い機能	・ 社会教育 ：図書館分館、市民の生涯学習の場、住民がリスティングができる場、スポーツ施設
目的のある交流空間	まちなか回遊の起点	・ 子育て支援 ：保育所、学童保育、子供の遊び場、勉強できる場
「羽衣」を感じられる風景	情報発信	・ 新産業創出 ：臨海部の企業との連携、スタートアップ支援、シェアオフィス、コワーキングスペース、チャレンジショップ
		・ 交流拠点 ：大学など多様な人との交流の場、自由に使える広場、イベント開催、オープンカフェ
		・ 情報発信 ：コミュニティFM、ギャラリー
		・ 交通利便性 ：駐車場

第4章 まちづくりの戦略

1. 事業スケジュール

- 駅前広場は令和10年度中の供用をめざす。
- 北ヤードは官民連携による事業推進を想定し、事業要件の整理を進める。
- 羽衣通りは地権者等との対話をふまえ整備の具体化に向けた検討を進める。
- 中長期的に羽衣駅周辺全域でのエリアマネジメントに取り組む。

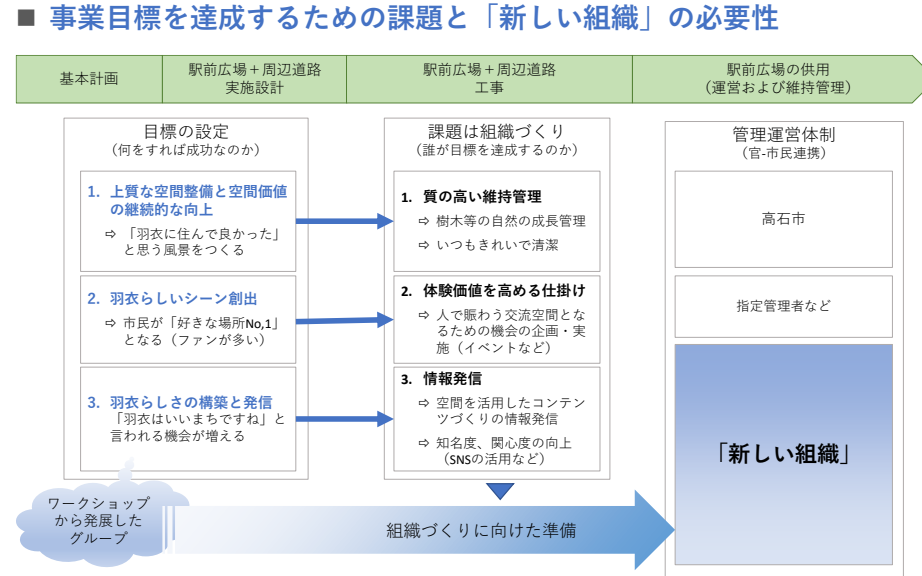


2. 「新しい組織」づくりに向けた取り組み

- 事業目標を達成するためには市民の想いを実現する「新しい組織」が必要

1. 上質な空間のための質の高い維持管理
2. 羽衣らしいシーンを創出するための体験価値を高める仕掛け
3. “羽衣らしさ”を発信するための情報発信

- 駅前広場の供用までの期間に「新しい組織」を構築する準備に取り組む
- 管理運営手法と高架下の機能誘導



3. 駅前広場等の整備を起点とするコトづくりとヒトづくり～段階的整備の進め方～

- 1st_STEP
✓ 駅周辺整備の確実な第一歩となる駅前広場の整備 ～ “上質”の実現
- 2nd_STEP
✓ 駅前広場の交流空間を活用したコトづくり
- 3rd_STEP
✓ 羽衣駅周辺全域の目標達成を担うヒトづくり

